

# 2016年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」

## 1 年次調査の概要

- 調査対象者 学部 2016 年度生全員。
- 調査方法 2016 年度秋学期成績通知書交付時に調査票を配布し、その場で学生に回答してもらい回収した。なお、本調査の回答と 3 年次終了時点での回答（2018 年度実施予定）を照合させるため、学生 ID の記入を求めている。
- 回収状況 回収数は 5217 票であり、在籍者数に対する回収率は 80.1%であった。

学部別回収状況（1 年次調査）

	在籍者数	回収数	回収率
神学部	65	57	87.7%
文学部	718	554	77.2%
社会学部	408	351	86.0%
法学部	911	751	82.4%
経済学部	903	721	79.8%
商学部	935	817	87.4%
政策学部	421	249	59.1%
文化情報学部	294	203	69.0%
理工学部	837	736	87.9%
生命医科学部	291	213	73.2%
スポーツ健康科学部	225	185	82.2%
心理学部	159	140	88.1%
グローバル・コミュニケーション学部	146	114	78.1%
グローバル地域文化学部	200	126	63.0%
合計	6513	5217	80.1%



Q4. 学生 ID をお答えください。

ID 

--	--	--	--	--	--	--	--

Q5. あなたの 2016 年度終了時点での累積 GPA はいくらでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。

- |                   |                   |                   |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 1.00 ポイント未満    | 2. 1.00～1.49 ポイント | 3. 1.50～1.99 ポイント |
| 4. 2.00～2.49 ポイント | 5. 2.50～2.99 ポイント | 6. 3.00 ポイント以上    |

Q6. あなたの高校での成績は、学年の中で大体どのくらいでしたか。次の中から最も近いものを選んでください。

1. 上位の方    2. 中の上ぐらい    3. 中ぐらい    4. 中の下ぐらい    5. 下位の方    9. わからない

Q7. あなたは、どの入試を受けて本学に入学しましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 一般入試                 | 8. 法人内諸学校等推薦入試(同志社女子高校)                               |
| 2. 指定校推薦入試              | 9. 法人内諸学校等推薦入試(同志社国際高校)                               |
| 3. 推薦選抜入試(公募制)          | 10. キリスト教主義学校連携ネットワーク推薦入試<br>(法人内諸学校等推薦入試(新島学園高校)を含む) |
| 4. AO入試                 | 11. スポーツ推薦選抜入試  |
| 5. 大学入試センター試験を利用する入試    | 12. 社会人特別選抜入試   |
| 6. 法人内諸学校等推薦入試(同志社高校)   | 13. 外国人留学生入試  |
| 7. 法人内諸学校等推薦入試(同志社香里高校) |   |

Q8. あなたの第一志望校はどこでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 現在、在籍している学部(学科)    2. 本学の他学部(他学科)    3. 私立他大学    4. 国公立大学  
5. 短期大学    6. 専門学校    7. その他(具体的に )

Q9. 入学前の状況として、最もあてはまる番号に○をつけてください。

1. 国内の高校に在学    2. 浪人していた(予備校に在学も含む)    3. 国内の他大学・短大に在学  
4. 国内の専門学校に在学    5. 会社で働いていた    6. 海外留学していた    7. その他( )

Q10. あなたが大学に進学した理由として以下の項目はどれくらい重要ですか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	まったく重要ではない	あまり重要ではない	いくらか重要である	非常に重要である
1) 就職に有利だから	1	2	3	4
2) 周りの人たちが進学するから	1	2	3	4
3) 親の希望だから	1	2	3	4
4) すぐに働きたくなかったから	1	2	3	4
5) 大学で学ぶ内容に興味があったから	1	2	3	4
6) 幅広い教養を身につけたかったから	1	2	3	4
7) 専門的知識を身につけたかったから	1	2	3	4
8) 学生生活を楽しんでみたかったから	1	2	3	4
9) 資格を取るために必要だったから	1	2	3	4
10) 大卒の学歴を得たいから	1	2	3	4

Q11. あなたは志望校として本学を選択するにあたって、どのような点を重視しましたか。あてはまる番号 すべてに ○をつけてください。

- |                  |                  |                   |
|------------------|------------------|-------------------|
| 1. 建学の精神や理念に惹かれた | 7. 研究面に優れた教員がいる  | 13. 高校から推薦入学制度がある |
| 2. イメージが良い       | 8. 就職に有利である      | 14. 自宅から通学できる     |
| 3. 自分の好きな分野を学べる  | 9. 親や知人の出身校である   | 15. 京都の文化に触れたい    |
| 4. 先端の学問を学べる     | 10. 親や知人に勧められた   | 16. その他           |
| 5. 将来性の高い分野を学べる  | 11. 資格が取れる       | (具体的に )           |
| 6. 教育面に優れた教員がいる  | 12. 自分の偏差値にふさわしい | 17. とくに考えていなかった   |

Q12. あなたは、次のような力が大学入学時にどの程度身についていたと思いますか。また、1年間本学で学んで、その力がさらに身についたと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	大学入学時に				1年間学んで					
	い な か っ た	身 に つ い て	い な か っ た	あ ま り 身 に つ い て	て い た	や や 身 に つ い た	身 に つ い て い た	身 に つ か な か っ た	あ ま り 身 に つ か な か っ た	や や 身 に つ い た
1) 授業の重要なポイントをノートにまとめる力	1	2	3	4	1	2	3	4		
2) 図書館の利用方法や文献を調べる力	1	2	3	4	1	2	3	4		
3) パソコン等を使って文書や資料を作成する力	1	2	3	4	1	2	3	4		
4) 自分の意見と事実を分けて書く力	1	2	3	4	1	2	3	4		
5) 定められた形式に従ってレポートを書く力	1	2	3	4	1	2	3	4		
6) 文献や資料を読んで要点を理解する力	1	2	3	4	1	2	3	4		
7) 課題を解決する力	1	2	3	4	1	2	3	4		
8) ものごとの問題点を発見する力	1	2	3	4	1	2	3	4		
9) プレゼンテーションの力	1	2	3	4	1	2	3	4		
10) 自分の意見を筋道立てて主張できる力	1	2	3	4	1	2	3	4		
11) 科学的・数量的にものごとを見る力	1	2	3	4	1	2	3	4		
12) ものごとに対して粘り強く取り組む力	1	2	3	4	1	2	3	4		
13) 英語の能力	1	2	3	4	1	2	3	4		
14) 英語以外の外国語(初修外国語)の能力	1	2	3	4	1	2	3	4		
15) 異文化の人々に関する知識	1	2	3	4	1	2	3	4		
16) 地域社会が直面する問題に対する理解	1	2	3	4	1	2	3	4		
17) グローバル化による問題に対する理解	1	2	3	4	1	2	3	4		
18) リーダーシップの能力	1	2	3	4	1	2	3	4		
19) 人間関係を構築する能力	1	2	3	4	1	2	3	4		
20) 批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4		
21) 効果的に学習する技能	1	2	3	4	1	2	3	4		

Q13. あなたは、本学の授業で次のような科目を履修しましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                     |                              |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1. 同志社科目(建学の精神や理念にふれる科目)            | 6. 免許・資格課程科目(教職、学芸員、司書、司書教諭) |
| 2. 先端領域科目                           | 7. 体育実技(スポーツパフォーマンス)         |
| 3. 複合領域科目                           | 8. AKP 同志社留学生センター開設科目        |
| 4. プロジェクト科目                         | 9. キャリア形成支援科目                |
| 5. 初年次教育科目(少人数制で主に大学での学習方法について学ぶ科目) | 10. 国際教養科目                   |

Q14. あなたは本学の授業に対して、どのように取り組んでいますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	全くしない	あまりしない	たまにする	よくする
1) 教員が黒板に書かなかったことでもノートを取る	1	2	3	4
2) 授業内容について教員に質問をする	1	2	3	4
3) 授業で出された課題はきちんと提出する	1	2	3	4
4) 授業内容について他の学生と議論する	1	2	3	4
5) 試験の前に時間をかけて勉強をする	1	2	3	4
6) 授業の予習や復習をする	1	2	3	4
7) 授業に遅刻や欠席をする	1	2	3	4
8) 欠席した授業の内容はすぐに補う	1	2	3	4
9) 授業を他の活動より優先する	1	2	3	4
10) 授業をつまらなく感じる	1	2	3	4
11) 業者の講義ノートを購入する	1	2	3	4

Q15. あなたがこれまでに受講した授業で、以下の授業形態・方法が取られたものがありましたか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	全くなかった	あまりなかった	時々あった	よくあった
1) 出欠の確認	1	2	3	4
2) ディスカッション	1	2	3	4
3) 学生によるプレゼンテーション	1	2	3	4
4) SA やTA(上級生や大学院生の補助)による助言	1	2	3	4
5) グループでの作業や活動	1	2	3	4
6) 定期的な習熟度チェック小テスト	1	2	3	4
7) 定期的な課題提出	1	2	3	4
8) 課題提出物の添削と返却	1	2	3	4
9) フィールド・ワーク	1	2	3	4
10) 体験学習	1	2	3	4
11) 実習・実験	1	2	3	4

Q16. あなたは、大学入学後に次のような経験をしたことがありますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	経験したことがある	経験したことがない
1) 語学研修プログラムへの参加	1	2
2) 正規交換留学生として留学	1	2
3) 私費留学生として留学	1	2

Q17. あなたにとって、本学の授業は次の項目に対してどの程度役に立ちましたか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	役に立たなかった	あまり役に立たなかった	やや役に立った	役に立った
1) 大学生活での目的や目標の設定	1	2	3	4
2) 学問に対する動機づけ	1	2	3	4
3) 職業や進路選択の方向づけ	1	2	3	4
4) 探究心を持つこと	1	2	3	4
5) 社会問題への関心を持つこと	1	2	3	4
6) 多様なものの見方にふれること	1	2	3	4
7) 批判的精神を持つこと	1	2	3	4
8) 協調性を持つこと	1	2	3	4
9) 大学生であるという自覚を持つこと	1	2	3	4
10) 愛校精神を持つこと	1	2	3	4
11) 自分に自信や肯定感を持つこと	1	2	3	4
12) リーダーシップを発揮すること	1	2	3	4
13) 国際的視野の獲得	1	2	3	4

Q18. あなたは次のことに対して、どのくらい満足していますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	満足	やや満足	いえない	どちらとも	やや不満	不満	(履修・利用していない)
1) 英語・外国語の授業	1	2	3	4	5	9	
2) 全学共通教養教育科目の授業	1	2	3	4	5	9	
3) 所属学部・学科の専門の授業	1	2	3	4	5	9	
4) 教室の設備環境	1	2	3	4	5	9	
5) 図書館の環境や設備	1	2	3	4	5	9	
6) ラーニング・コモンスの環境や設備	1	2	3	4	5	9	
7) 各学部が設置している学習スペースの環境や設備	1	2	3	4	5	9	
8) パソコンの利用環境	1	2	3	4	5	9	
9) 免許・資格課程科目(教職、学芸員、司書、司書教諭)の授業	1	2	3	4	5	9	

Q19. あなたは、大学での学習についてどのように考えていますか。次のような意見について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選び、○をつけてください。

	そう 思わない	あまり そう 思わ ない	やや そう 思 う	そう 思 う
1) 大学で学ぶことは楽しい	1	2	3	4
2) 大学で学ぶこと自体に価値がある	1	2	3	4
3) 大学でよい成績をとることは重要だ	1	2	3	4
4) 大学で身につけた知識やスキルが将来の職業生活に役立つ	1	2	3	4
5) 大学を卒業すれば、よりよい条件の職業につくことができる	1	2	3	4
6) 大学で何を学んだかは就職活動の結果に関係がない	1	2	3	4

Q20. あなたは、大学生活のなかで、次のことに対してどのように感じていますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	あてはまる	やや あてはまる	あまりあては まらない	あてはまらな い
1) 同じ学部・学科の友人がいる	1	2	3	4
2) 他の大学に通う友人がいる	1	2	3	4
3) 大学の教員と交流がある	1	2	3	4
4) 大学の一員だと感じる	1	2	3	4
5) 大学は気おくれして居心地が悪い	1	2	3	4
6) 大学はいつも退屈だ	1	2	3	4

Q21. あなたは、次のような項目について、大学にもっと教えてほしいと思いますか、そうは思いませんか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	教 え て ほ し く な い	ど ち ら か と い え ば 教 え て ほ し く な い	ど ち ら か と い え ば 教 え て ほ し い	教 え て ほ し い
1) 大学の建学の精神や理念	1	2	3	4
2) 大学の歴史・伝統	1	2	3	4
3) カリキュラム編成や卒業単位の習得方法	1	2	3	4
4) 履修登録の具体的な方法	1	2	3	4
5) 大学内の施設・設備の利用方法	1	2	3	4
6) 大学で利用できる制度やサービス(留学、就職相談など)	1	2	3	4

Q22. あなたは、本学に対してどのくらい愛着がありますか。あてはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4	5
非常に 愛着がある	かなり 愛着がある	ある程度 愛着がある	あまり 愛着がない	まったく 愛着がない

Q23. あなたは、**今学期(秋学期)**、授業を何科目(コマ)登録しましたか。また、登録した授業のうち、7割(11回)以上出席した授業は何科目(コマ)ありましたか。休学等の理由で授業の登録を行わなかった場合は0(ゼロ)と記入してください。(注意:単位数ではありません)

1) 登録した授業		科目(コマ)
2) 7割(11回)以上出席した授業		科目(コマ)

Q24. あなたは授業期間中、**通常 1 週間に**約何時間、次の活動を行いましたか。まったくしなかった場合は、0(ゼロ)と記入してください。

1) 授業中以外の学習(授業の予習・復習、課題作成、 実験、リハーサル等)		時間 くらい
2) 仕事またはアルバイト		時間 くらい
3) クラブ・サークル活動		時間 くらい
4) 授業とは関係のない読書(漫画、趣味・娯楽雑誌を 除く)		時間 くらい

Q25. あなたは現在、クラブ・サークル等の団体に加入していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 現在、加入している      2. 以前は加入していたが、現在は辞めている      3. 加入したことはない

↓

→ Q27に進んでください。

Q26. あなたが加入している(していた)団体は次のどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。  
 \* 複数の団体に加入している(していた)場合は、もっとも熱心に取り組んでいる(いた)団体についてお答えください。  
 \* 「公認団体以外の学内団体」には、学生支援センター登録団体を含みます。

1	2	3	4	5
公認団体 体育会	公認団体 スポーツブロック	公認団体 文化系	公認団体以外 の学内団体	その他 (具体的に )

Q27. あなたは、本学の教育全般に満足していますか、それとも不満ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4	5
満足している	どちらかといえば 満足している	どちらともいえない	どちらかといえば 不満である	不満である

Q28. あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 民間企業に就職する	2. 公務員や教員として就職する	3. 自営業や家業を継ぐ
4. 大学院に進学する	5. 他大学に(編)入学する	6. 専門学校に進学する
7. まだわからない	8. その他(具体的に )	



Q29. あなたの大学入学後の学習・生活習慣について、あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	し な か っ た	し な か っ た あ ま り	た ま に し た	日 常 的 に し た
1) 図書館を利用する	1	2	3	4
2) ラーニング・コモンズを利用する	1	2	3	4
3) 各学部が設置している学習スペースを利用する	1	2	3	4
4) 教科書以外の文献を読む	1	2	3	4
5) 新聞の政治面、経済面、国際面等を読む	1	2	3	4
6) 新聞、インターネット等で英文記事を読む	1	2	3	4
7) 学習の計画を立てる	1	2	3	4
8) インターネットで情報を収集する	1	2	3	4
9) パソコンを使って文書や資料を作成する	1	2	3	4
10) ボランティア活動をする	1	2	3	4
11) 新島襄や建学の精神にふれる大学の行事に参加する	1	2	3	4

本学の教育について意見があれば、自由に記入してください。

**ご協力ありがとうございました。**

※本アンケート調査項目の利用を希望される場合は、同志社大学学習支援・教育開発センター(ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp)までご連絡ください。

## 大学に進学した理由（Q10）

本学に在学している学生たちが、どのような理由で大学に進学してきたのかを検討する。この調査では、10項目について、「まったく重要ではない」から「非常に重要である」の4段階の選択肢で尋ね、学生から回答を求めている。回答結果をまとめた図1によると、進学理由として重視（「いくらか重要である」+「非常に重要である」）されている項目は、「大卒学歴を得たい（85.4%）」「学生生活を楽しみたい（84.0%）」「就職に有利（83.7%）」「幅広い教養を身につけたい（82.5%）」「学ぶ内容に興味がある（80.7%）」といったものであることが示されている。これらの項目と比べて、「すぐに働きたくない」「親の希望」「周りの人が進学」といった消極的理由の重要性は低い。

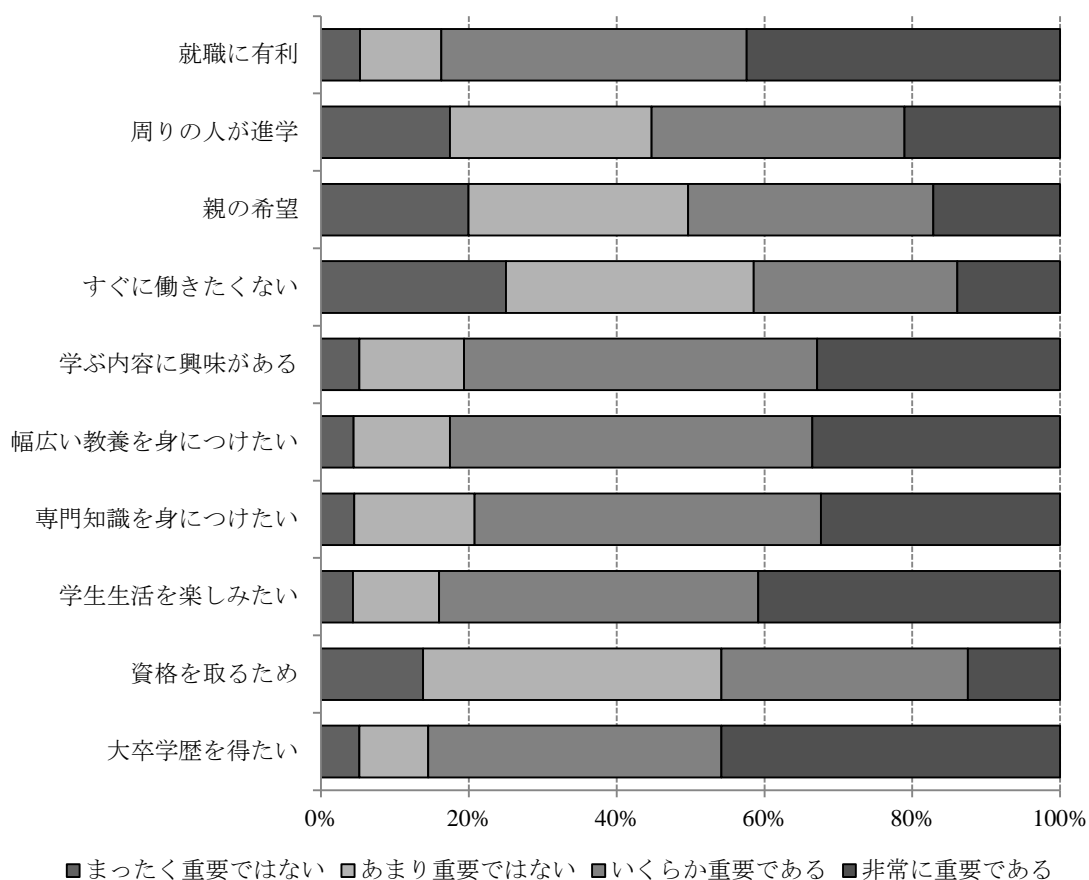


図1：大学進学理由

## 本学選択理由（Q11）

大学入試時に志望校として本学を選択するに際して、どのような点が学生に重視されていたのだろうか。Q11 では志望校として本学を選択する際に、重視したと思われる理由を列举し、該当する項目を複数回答方式で質問している。図2は、項目別に回答を集計したものである。

志望校として本学を選択した理由のトップは、「イメージが良い」で56.8%の学生が選択している。選択率の第2位は、「就職に有利」で43.0%の学生が選択し、これに36.6%の学生が選択した「好きな分野を学べる」が続いている。そうした一方で、「教育面に優れた教員がいる」こと、「研究面に優れた教員がいる」ことを選択した学生は5%ほどにとどまる（回答の割合は、順に5.1%、4.8%）。

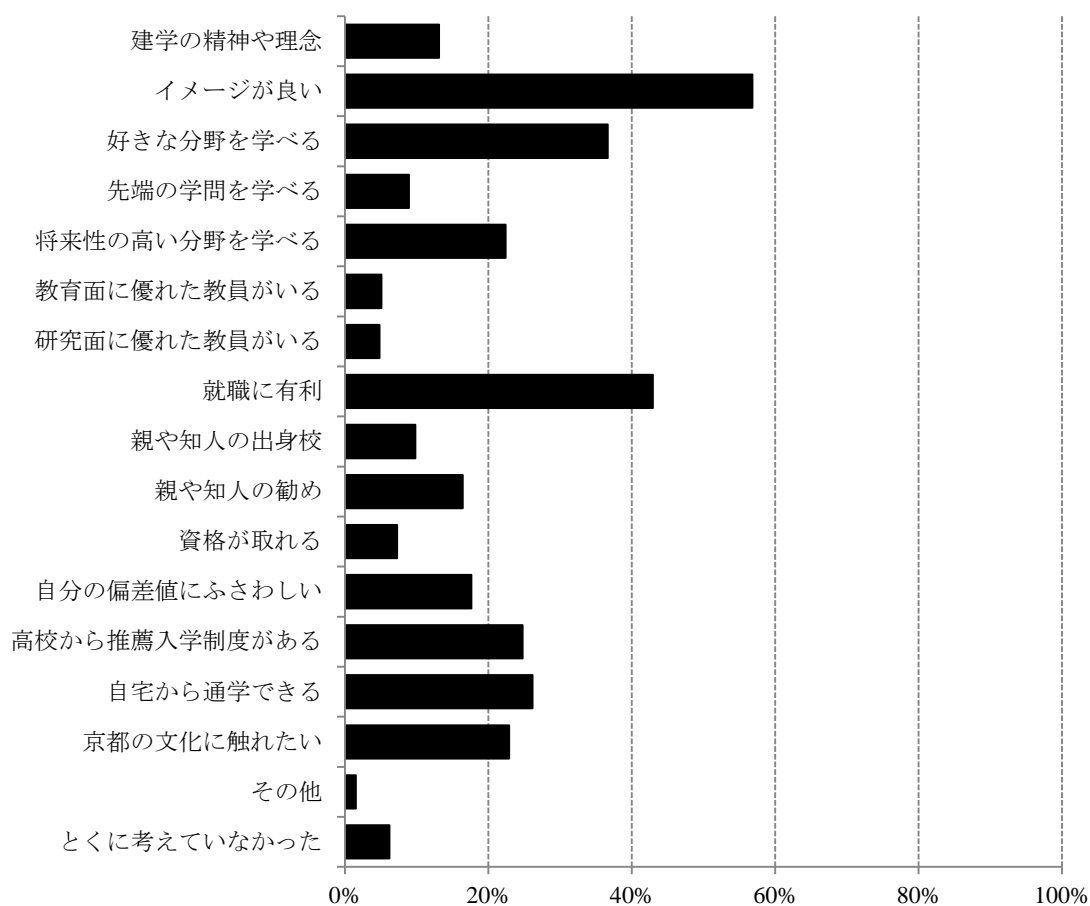


図2：本学選択理由

## 授業に対する取り組み（Q14）

Q14 では、学生の授業への取り組みに対する具体的な行動について頻度を問うている（回答の選択肢は「全くしない」、「あまりしない」、「たまにする」、「よくする」の4段階である）。実行の頻度が多い順に項目を並べた結果が図3である。図3から、大多数の学生（90.3%）が「授業課題の提出」について問題なく実行（「たまにする」「よくする」）できており、「全くしない」学生はごく少数（1.5%）にとどまることがわかった。「試験前に時間をかけて勉強する」こと、「教員が黒板に書かなかったことでもノートを取る」ことについても、「よくする」と回答した学生は2割を超え、「たまにする」までを含めると、おおむね7割の学生が実行できている。さらに、「授業に遅刻や欠席をする」ことを「よくする」と回答した学生は1割未満（7.7%）にとどまる。

こうした一方、「授業の予習や復習をする」ことに対して、「たまにする」もしくは「よくする」と回答した学生の合計は54.3%である。加えて、「授業内容について教員に質問する」ことを「よくする」と回答した学生はわずか5.1%であり、学生の4人に1人（26.3%）は教員に質問を「全くしない」ことが示されている。これらの結果から、1年次終了時の段階で、大学における基本的な学習スタイルを学生の多くが身につけていると判断できるものの、主体的、能動的な学びに関しては活発であるとは言い難い。大学教育を通じて、主体的、能動的な学びを学生にどのように惹起していくかが今後の課題といえよう。

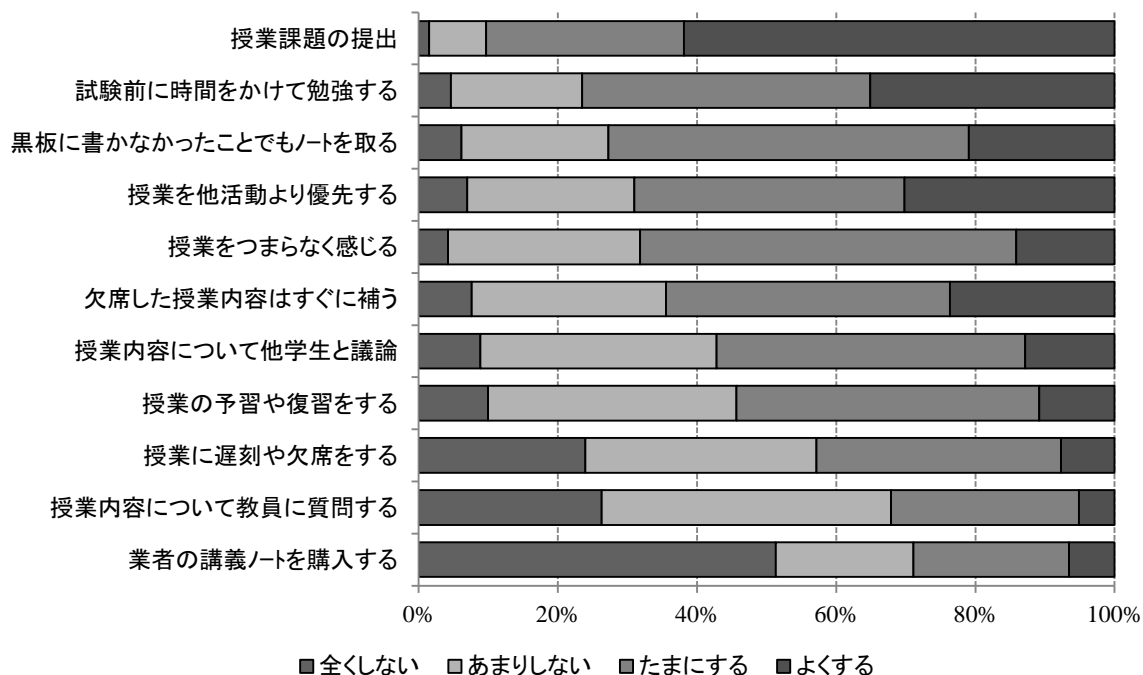


図3：授業に対する取り組み

## 授業の形態・方法（Q15）

Q15では、学生が回答時までには経験（受講）した授業の形態・方法を問うている（回答の選択肢は、「全くなかった」、「あまりなかった」、「時々あった」、「よくあった」の4段階である）。回答結果について整理した図4によると、「出欠の確認」と「定期的な課題提出」を「全くなかった」と回答した学生は2%未満であり、程度の差こそあれ、これらのことは、学生の多くにとって日常的な出来事となっていることがわかる。「グループでの作業や活動」、「定期的な習熟度チェック小テスト」、「定期的な課題提出」についても学生の経験率は高い。ただし、教員から「課題提出物の添削と返却」が「よくあった」と回答した学生は14.6%にとどまり、それほど多くない。

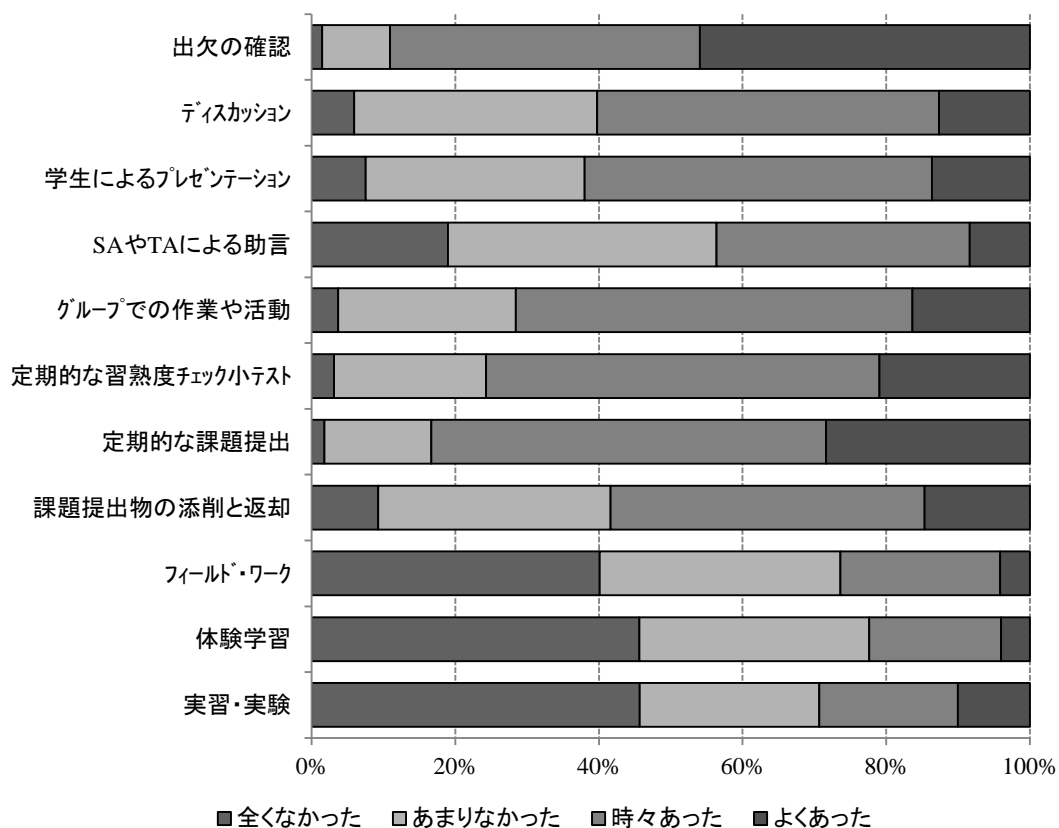


図4：授業の形態・方法

## 留学等の経験（Q16）

学生の留学経験を確認していく。Q16では、大学入学後の留学等の経験について回答を求めている。1年次ということもあり、留学経験がある学生は少数にとどまっている。大学全体で、「語学研修プログラムへの参加」を経験した者が6.7%、「正規交換留学生として留学」を経験した者が2.5%、「私費留学生として留学」を経験した者が4.1%であった（図5）。

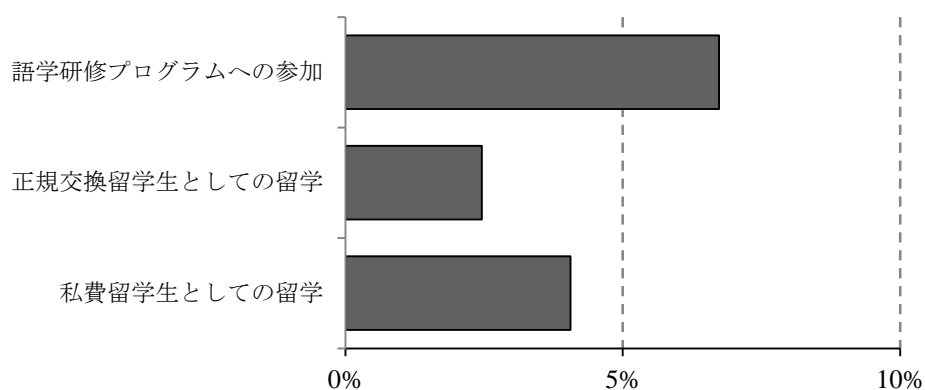


図5：留学等の経験

## 授業に対する評価（Q17）

Q17では、本学の授業内容が、どの程度、役に立ったと学生が認識しているのかを把握するために具体的に尋ね、それぞれの項目について4段階（「役に立たなかった」、「あまり役に立たなかった」、「やや役に立った」、「役に立った」）で回答を求めている。図6は、「やや役に立った」と「役に立った」の合計（%）が多い順に項目を並べた結果となっている。

集計結果をまとめた図1-21によると、「やや役に立った」までを含めた場合、学生の5人に4人が「多様なものの見方にふれること」について、本学の授業内容が役立ったと考えているようである。高校までの授業とは異なり、大学では複数の学問領域を横断する授業が開設され、一つの事象（例えば、生殖医療や環境問題など）について多角的な視点から説明されることが多い。こうした大学における授業の特色が、今回の回答結果にもあらわれているのだろう。

さらに、「大学生としての自覚を持つこと」に対しても、大多数の学生が本学の授業内容が役立ったと評価していることを確認できる。これらの項目と比べて、「愛校精神を持つこと」や「リーダーシップを発揮すること」に対する学生の評価は相対的に低い。この結果をみても、平素の授業のなかで、学生に愛校精神を涵養することが如何に難しいことであるかが理解できる。

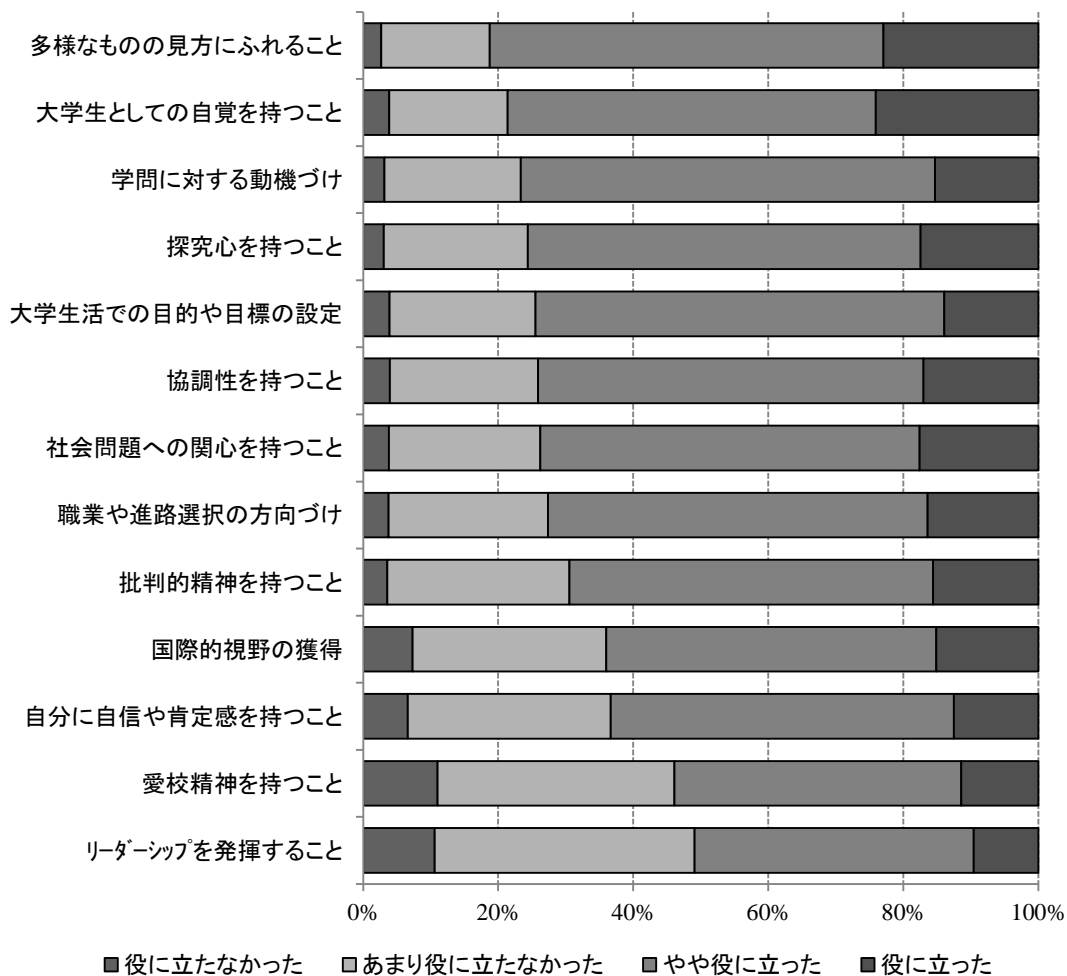


図6：授業に対する評価

## 大学教育の価値（Q19）

ここでは、大学教育そのものに対して学生がどのように考えているのかをみていく。Q19では、大学での学びや大学教育の職業的な価値などに関して回答を求めている（回答の選択肢は、「そう思わない」、「あまりそう思わない」、「ややそう思う」、「そう思う」までの4段階である）。

学生からの回答をまとめた図7から、学生の多くが、大学教育について肯定的な認識をもっていることがわかった。8割前後の学生が、「大学で学ぶことは楽しい」、「大学で学ぶこと自体に価値がある」、「大学でよい成績をとることは重要」という意見について肯定的に考えている（「ややそう思う」と「そう思う」の合計）。さらに、大学教育の職業的価値を尋ねた「知識やスキルが将来の職業生活に役立つ」、「卒業すれば、よりよい条件の職業につくことができる」についても、4/5以上の学生は肯定的に見なしていることが示されている。

これらに対して、「何を学んだかは就職活動の結果に関係ない」という意見を肯定する学生は半数（44.6%）を割り込み、その割合は、他の項目と比較して抜きんで少ないのが特徴的である。

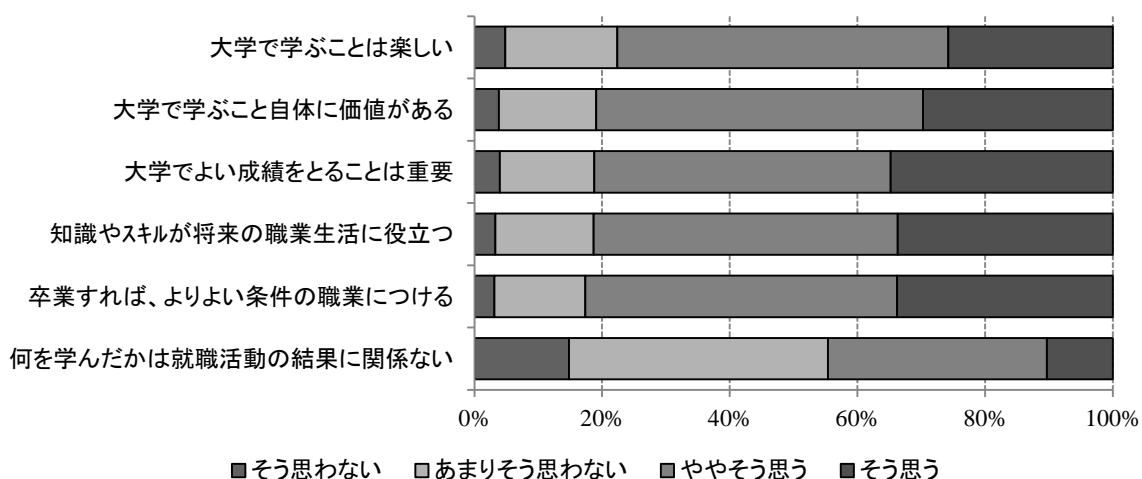


図7：大学教育の価値



## 大学への適応状況（Q20）

Q20では、友人・教員との関係や、大学生活を送るなかで日常的に感じる意識を把握することを目的に6項目を設定し、4段階（「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」）で回答を求めている。

図8は、肯定的な回答である「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が多い順に回答結果をまとめたものである。図1-25から、「同じ学部・学科の友人がいる」と「他の大学に通う友人がいる」の2項目については、7割ほどの学生が「あてはまる」と回答している。一方、「大学の教員と交流がある」に対する肯定的な回答（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）は3割に届かない。全学共通教養教育科目や外国語科目の履修が中心となる1年次段階では、教員と接する機会は、それほど多くはないのだろう。また、「大学はいつも退屈だ」と「大学は気おくれして居心地が悪い」への肯定的な回答は4割を下回り、大多数の学生は、本学での大学生活を謳歌しているようだ。

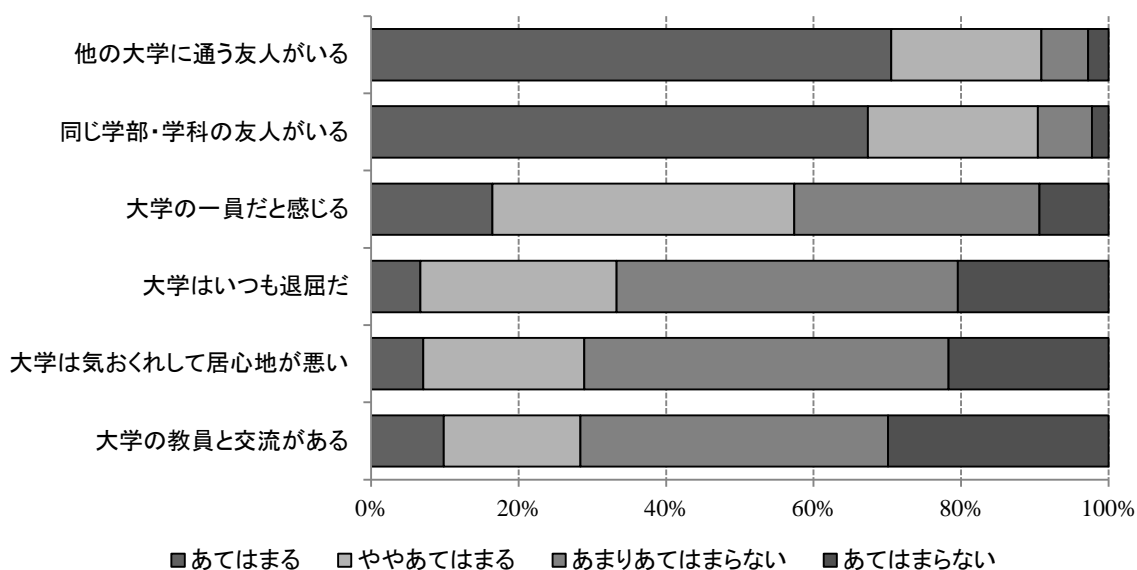


図8：大学への適応

## 大学に対する要望（Q21）

ここでは、本学の学生が大学に対して、どのような要望を抱いているのかを確認していこう。キャンパスライフに関するアンケート調査では、「大学の建学の精神や理念」などの6つの項目を設け、各項目について「教えてほしい」から「教えてほしくない」の4段階で回答を求めている。

図9は回答結果を整理したものであるが、これを見ると、「大学の建学の精神や理念」と「大学の歴史・伝統」の回答分布状況は近似しており、「教えてほしい」と回答した学生は、双方とも1割に満たない。他方で、「カリキュラム編成や卒業単位の習得方法」と「履修登録の具体的な方法」については、4割前後の学生が「教えてほしい」と回答している。

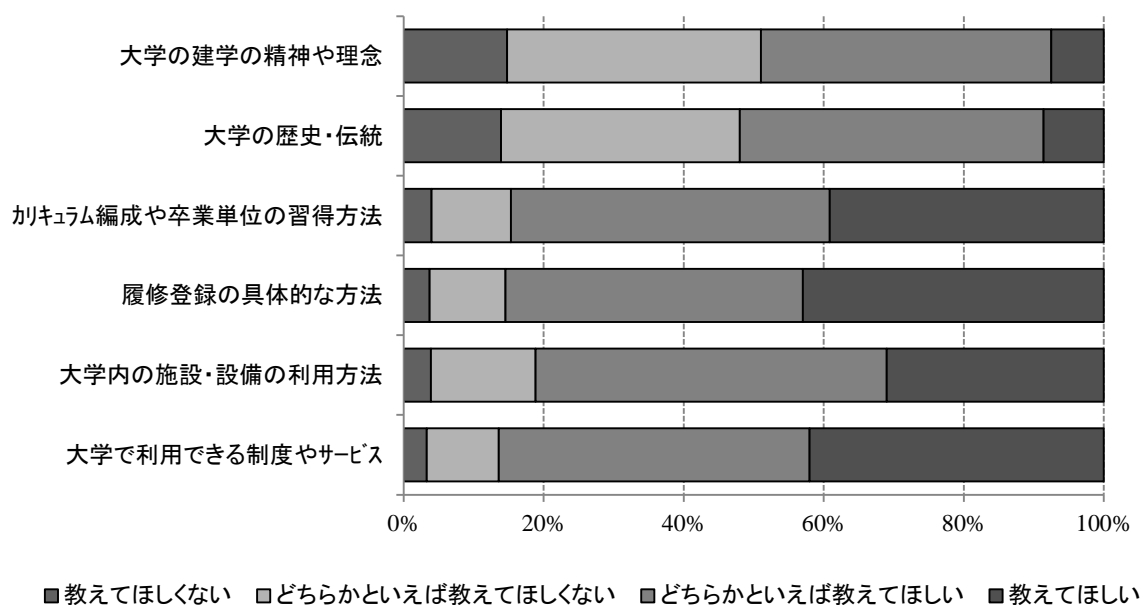


図9：大学に対する要望

## 大学に対する愛着（Q22）

Q22では、本学に対する愛着の度合いを「非常に愛着がある」から「まったく愛着がない」まで5段階の選択肢で回答を求めている。本学全体の傾向を確認してみると、もっとも多い回答は「ある程度愛着がある」（57.2%）であり、以下、「かなり愛着がある」（17.4%）、「あまり愛着がない」（11.2%）が続いている（図10）。「非常に愛着がある」との回答は全体の1割ほど（10.9%）を占めている。こうした結果から、本学に対する学生の愛着は基本的に高い水準にあると判断できる。

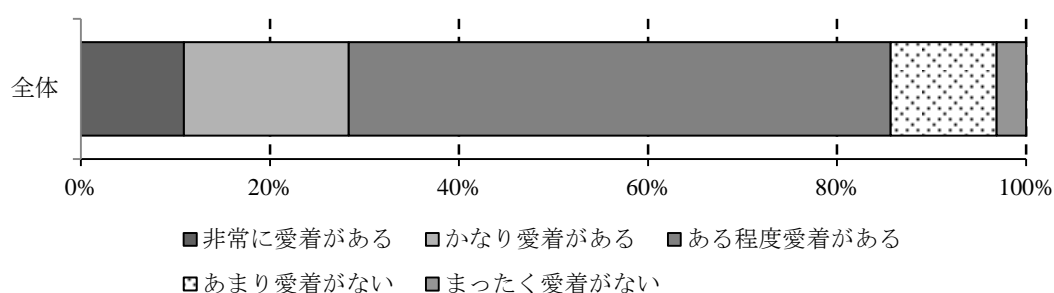


図10：大学に対する愛着

## 生活時間【部活・サークル、アルバイト、授業外学習、読書】(Q24)

図 11 は「部活・サークル」「アルバイト」に対する一週間の活動時間を集計した結果である。学生の「部活・サークル」活動時間は、「1～5 時間」がもっとも多く（37.3%）、平均は 5.62 時間であった。「アルバイト」従事時間は、「6～10 時間」がもっとも多く（26.5%）、「11～15 時間」（20.6%）と「0 時間」（18.6%）と回答した学生がほぼ同率であった。なお、平均は 10.58 時間である。

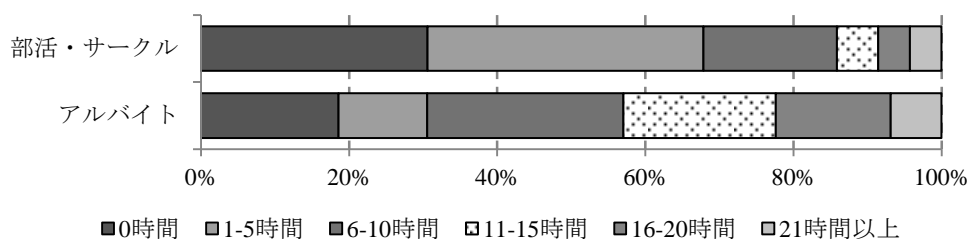


図 11：一週間あたりの部活・サークル、アルバイト時間

図 12 は、一週間の「授業外学習」「授業に関係ない読書」時間を示す。「授業外学習」は「1～2 時間」が 35.6%と最も多く、平均は 4.22 時間であった。さらに、「授業に関係ない読書」に費やす時間は「0 時間」（28.0%）と「1～2 時間」（29.8%）が多い。これに対して、一週間に「9 時間以上」読書する学生もおおよそ 2 割（18.7%）存在し注目される。平均は 4.36 時間であった。

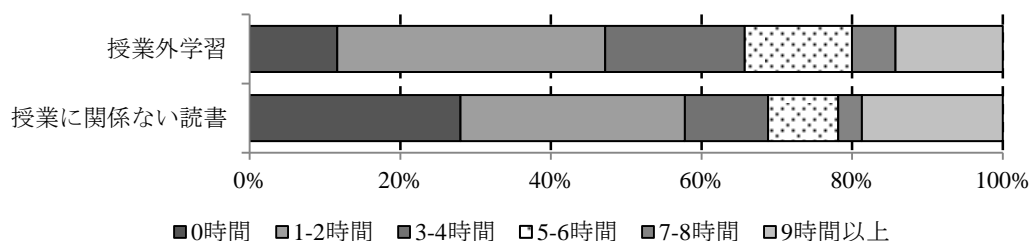


図 12：一週間あたりの授業外学習、読書時間

## 部活・サークル活動（Q25・26）

図13は、学生の部活・サークルへの加入状況をあらわしている。大学全体としては、72.3%の学生が部活・サークルへ加入している。

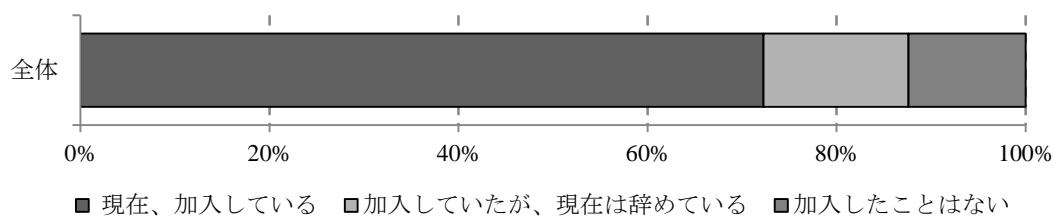


図13：部活・サークル等への加入状況

続けて、部活・サークルへ「現在、加入している」「加入していたが、現在は辞めている」学生の団体種別をみていく。回答をまとめた図14によれば、大学全体として、もっとも多くの学生が加入している団体種別は「公認文化系」（34.0%）であった。

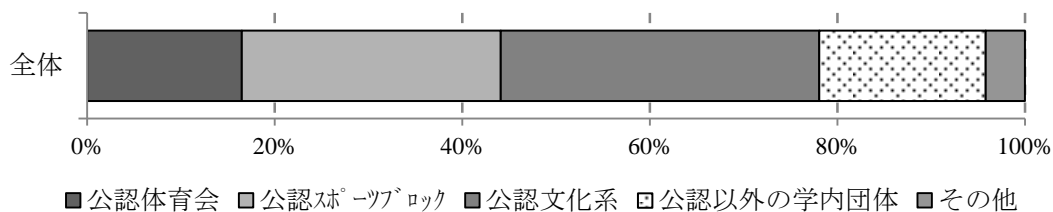


図14：加入団体の種別

## 学習・生活習慣（Q29）

Q29では、大学入学後の学習・生活習慣を捉えるために11の項目を設定し、それぞれの項目について「しなかった」から「日常的にした」までの4段階の選択肢で質問し、回答を求めている。回答を頻度の多い順に示したものが図15である。もっとも頻度が高い項目は「図書館を利用する」であった。「日常的にした」と「たまにした」の合計は8割を上回っている。これに、「PCを使って文書や資料を作成する」「インターネットで情報を収集する」が続いている。そうした一方、「ボランティア活動」と「新島襄や建学の精神にふれる大学の行事に参加」した経験がない（「しなかった」）学生は過半数を占めている。

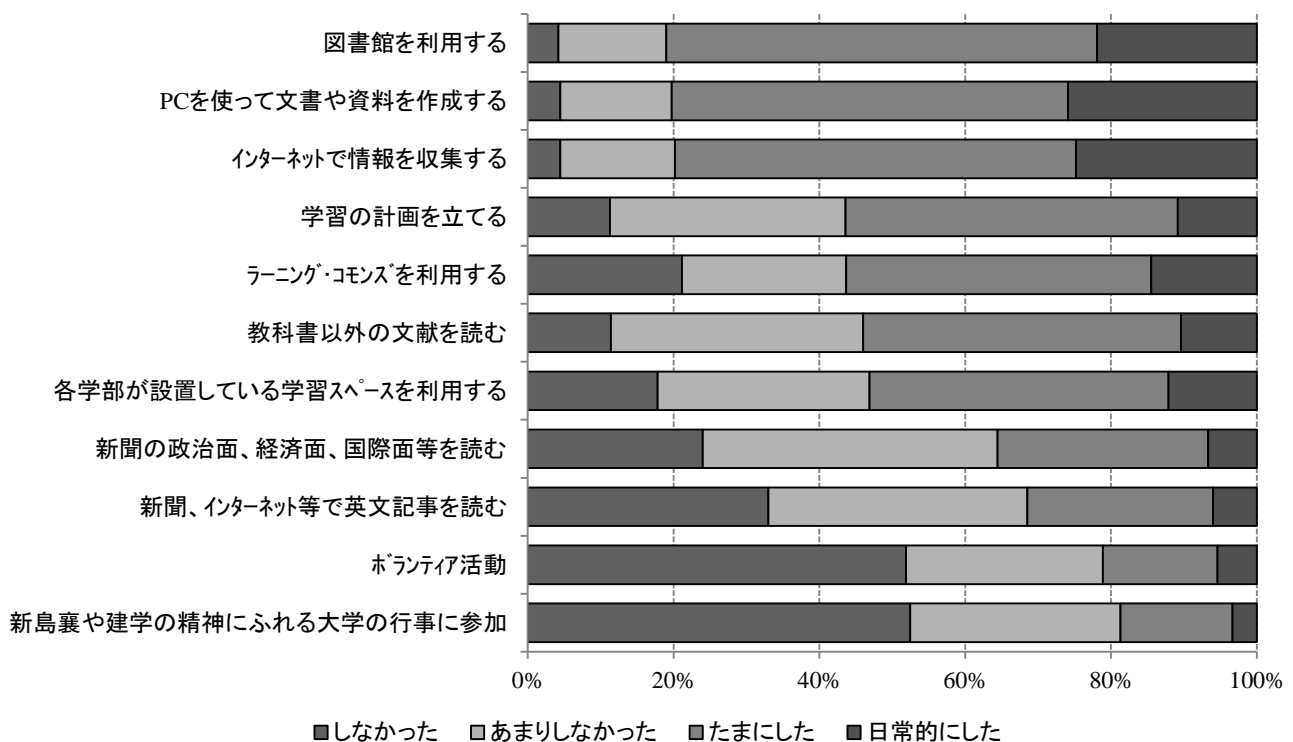


図15：学習・生活習慣

## 満足度（Q27：大学教育全般の満足度、Q18：領域別満足度）

図 1-40 は、本学の教育全般に対する満足度を整理した結果である（回答の選択肢は、「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の 5 段階である）。図 16 によると、「満足している」との回答は 21.1%、「どちらかといえば満足している」との回答は 47.3% を占め、両者を合計すると、3/2 以上（68.4%）の学生が本学の教育に満足していることがわかった。一方、「どちらともいえない」と判断を保留する学生も一定数（26.7%）存在する。ただし、不満と回答した学生は 5% 未満にとどまっている。

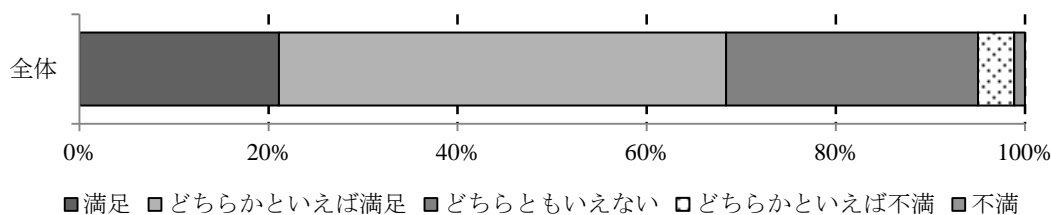


図 16：教育全般に対する満足度

それでは続いて、満足度を領域ごとに検討していく。Q18 では、設備環境や授業科目への満足度を、「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」の 5 段階の選択肢で質問し、項目別に回答を求めている。図 17 は、「満足」と「やや満足」の合計 (%) が多い順に項目を並べた結果である。図 17 によれば、「やや満足」までを含めると 7 割を大きく超える (74.2%) 学生が「図書館の環境や設備」に満足していることがわかる。加えて、「教室の設備環境」「ラーニング・commonsの環境や設備」「各学部が設置している学習スペースの環境や設備」といった学習設備の環境や「PC の利用環境」についても、学生の多くは満足しているようである。一方で、「英語・外国語の授業」の現状に不満を感じている学生は、他項目と比べてやや多いことが示されている。

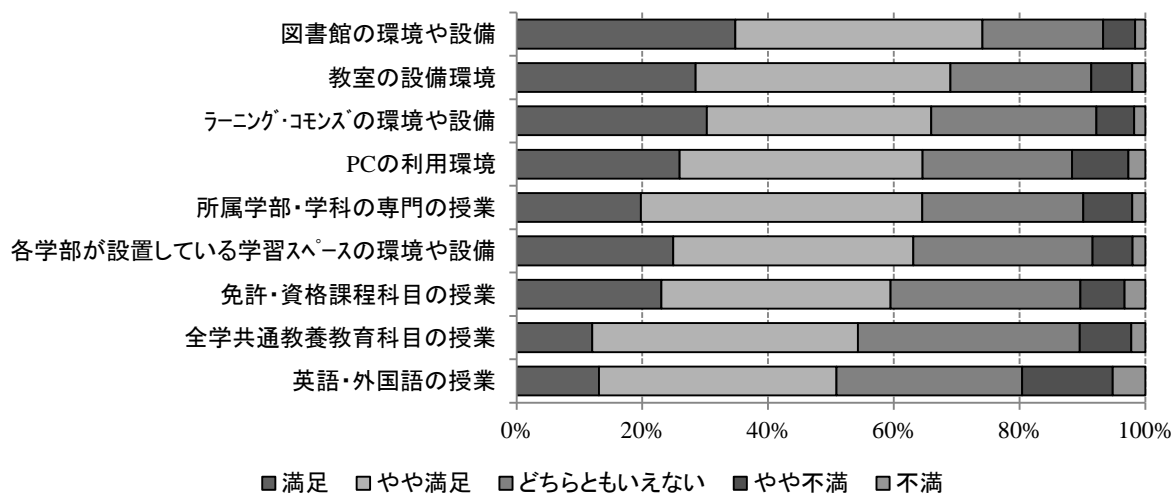


図 17：領域別満足度

## 希望する進路（Q28）

図18は卒業後の希望進路をまとめたものである。大学全体の特徴として指摘できることは、卒業後の進路に「大学院」進学を希望する学生は男性に多く（男性11.6%、女性5.1%）、判断を保留する（「未定」と回答）傾向は女性に多い（男性26.7%、女性30.1%）ということである。「未定」には「その他」も含まれているが、この割合は1%程度である。こうした結果をみても、大学に入学し1年ほどしか経過していない時点においてもジェンダー（社会的・文化的に形成された性差）的な要因が卒業後の希望進路に色濃く影響していることがわかる。

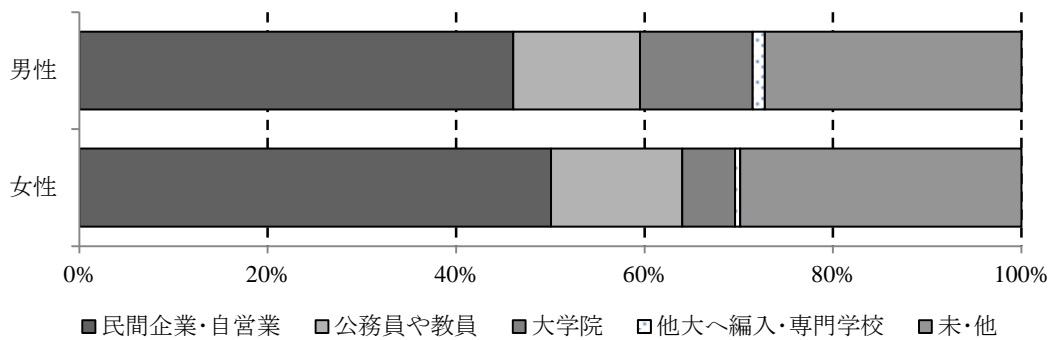


図18：希望する進路